第１部　総論

第1章 基本的な考え方

背　　景

目　　的

位置づけ

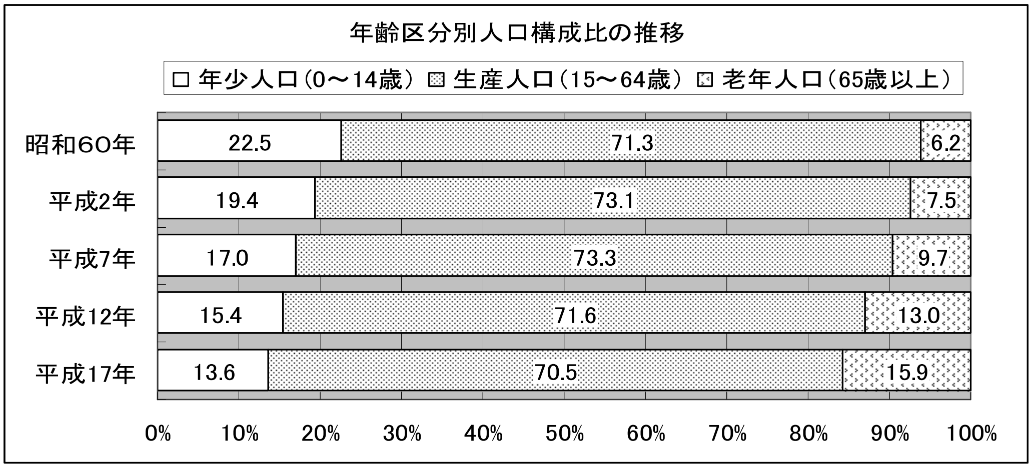
　そもそも「健康ふっさ２１」とは何なのでしょうか？
　何を目的として、どのようなことをするのでしょうか？
等々、「健康ふっさ２１」についての基本的な考え方を紹介します。

第1章　基本的な考え方

1. 背　景

　近年わが国では、世界有数の長寿国としての地位を確固たるものにしました。しかしそれは、急速な少子高齢化等に起因する、「介護問題」等の課題を伴っています。一方では、食生活の急激な変化や、運動、ストレス、喫煙、アルコール等の日ごろのライフスタイルに起因する「生活習慣病」の増加が、深刻な社会問題を引き起こしています。それは福生市においても同様の状況であり、財政的な面から見ても、社会的にみても、早急に解決しなければならない最重要の問題です。これらの対策として、最良の方法と考えられているのが「健康づくり」による、「健康寿命（介護等が必要にならないで生活できる期間）」の延伸です。
国では「すべての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会」を目指し、「21 世紀における国民健康づくり運動」である「健康日本２１」を平成 12 年 3 月に策定しました。これを受けて、東京都では平成 13 年 10 月に「東京都健康推進プラン 21」を策定し、生活習慣病と寝たきりの予防などを重点的に取り組んでいます。

　福生市においても、これまでの保健事業を継承しつつも、国や東京都のプランの趣旨をふまえて、健康教育や各種検診事業の見直し等、斬新的に体制を整えてきました。「健康ふっさ２１」の策定とそれに基づく実行は、市民の健康づくりを応援するのみならず、福生市の保健事業や健康づくりに関する事業に、大きな変革をもたらすことになります。

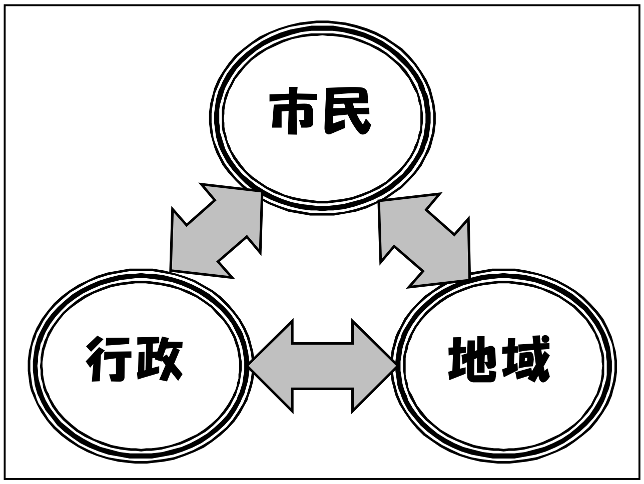


住民基本台帳より（各年１月１日現在）

2. 目　的

福生市健康づくり計画「健康ふっさ２１」は、福生市民の健康づくりについての施策を９つの分野から体系化したものです。まずは 10 年後（２０１６年）を目指し、基本的な目標や、取り組みの方向について計画を立てております。計画を策定するにあたっては、保健医療関係の統計と平成 17 年４月に実施した「市民の健康に関するアンケート」や公募等により市民ボランティアとして計画づくりに参加した１２名の「いけいけふっさ２１」のメンバーの意見を集約し作成しました。なぜなら、「健康ふっさ２１」の最大の特徴は、行政だけが健康づくりに取り組むのではなく、各関係団体や地域、そして市民一人ひとりの取り組みこそが最も重要な要素だと位置づけているからです。

また、福生市の行政の中においても、健康づくりという視点で捉えた場合、関連事業は健康管理課（保健センター）だけにとどまらず、福祉、教育、環境などの市の事業の各分野にまたがっており、横のつながりを密にしていくことも非常に重要であることがわかります。

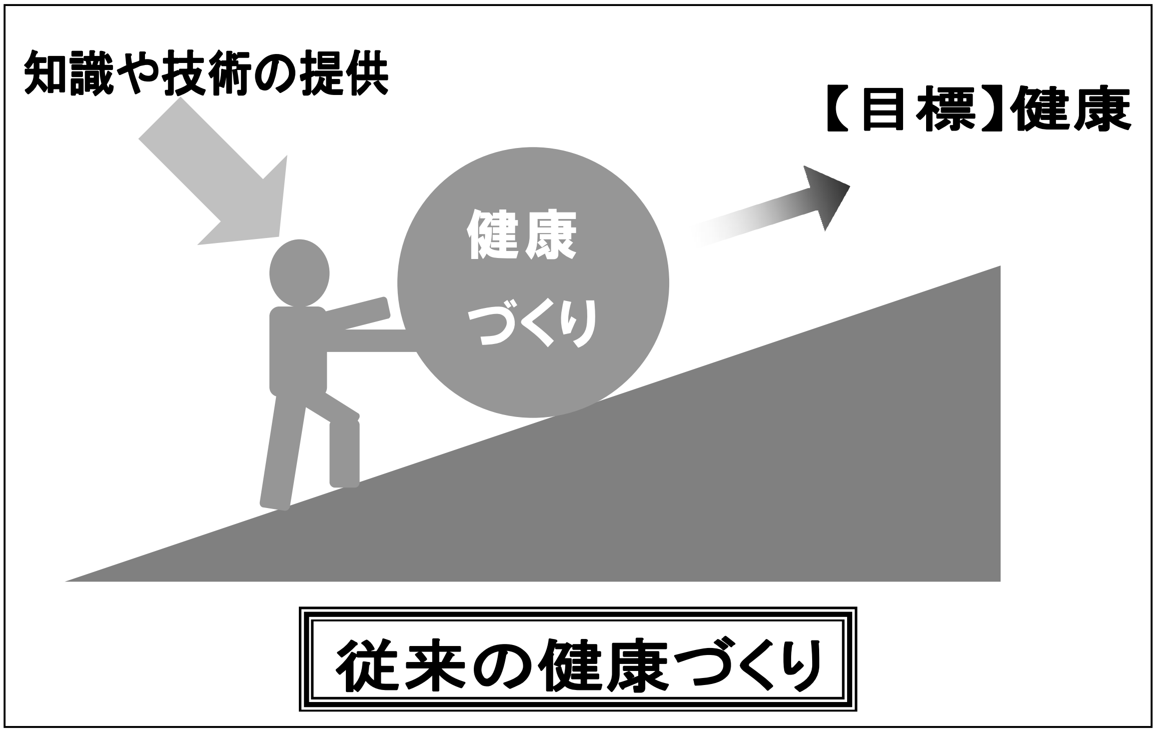


市民と地域と行政の３者が、しっかりと連携し、それぞれの役割を果たすことによって、市民一人ひとりの健康寿命は保たれるものと思います。

「健康ふっさ２１」は福生市民の健康づくりにおける指針として、日常生活のあらゆる場面で活用されることを目的に策定しました。

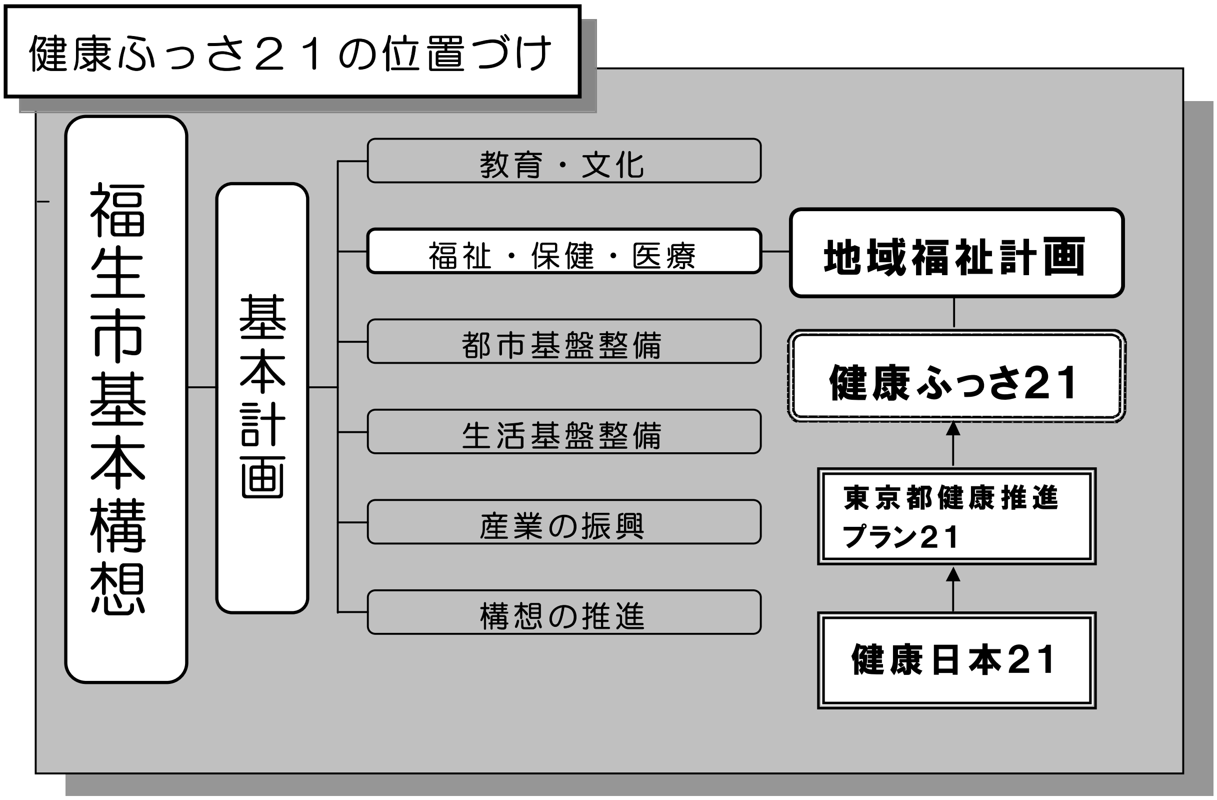
地域や市民一人ひとりが、健康に対しての意識を高めて、健康づくりに励み、それに対して行政は、健康づくりに取り組みやすい環境を整備していきます。これにより市民が、より健康になり、他の人にも普及し啓発していくという「健康づくりにおける良い循環」の体制が整います。そして一人ひとりが生涯を通じて元気で暮らすことができ、社会の維持・発展にもつながっていくことになります。

健康づくりのイメージ図



3. 位置づけ

福生市では、平成 12 年に「福生市総合計画（第３期）」を策定しました。その基本計画の分野として「福祉、保健、医療」が非常に重要な位置を占めていることは言うまでもありません。

「健康ふっさ２１」はこの「福祉、保健、医療」の分野の中でも、最重要な計画のうちのひとつとして位置づけることができるでしょう。

また、前述のように「健康日本２１」と「東京都健康推進プラン２１」を受けての計画作りとなるので、国や都の計画との整合性も図りながら進めていく必要もあります。